



安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2022/07/21 改訂日: 2022/07/21 バージョン: 1.0 (M)SDS Number: 1352983

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)
製品コード : 40-6627, 40-6628, 40-6629, 40-6629-032, 40-6629-128, 40-6630, 40-6630-032, 40-6630-128, 40-6630F, 40-6630F-032, 40-6630F-128, 40-6631, 40-6631-032, 40-6631-128, 40-6631F, 40-6631F-032, 40-6631F-128, 40-6632, 40-6632-032, 40-6632-128, 40-6633, 40-6633-032, 40-6633-128, 40-6634, 40-6634-032, 40-6634-128, 40-6635, 40-6635-032, 40-6635-128, 40-6636, 40-6636-032, 40-6636-128, 40-6528, 40-6529, 40-6530, 40-6530-032, 40-6530-128, 40-6531, 40-6531-032, 40-6531-128, 40-6532, 40-6532-032, 40-6532-128, 40-6533, 40-6533-032, 40-6533-128, 40-6534, 40-6534-032, 40-6534-128, 40-6535, 40-6536, 40-6536-128, 40-6730, 40-6730-032, 40-6731, 40-6731-032, 40-6732, 40-6732-032, 40-6733, 40-6733-032, 40-5530-032, 40-5531-032, 40-5532-032, 40-5534-032, 40-6531X, 40-6630X

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 分析用薬剤
使用上の制限 : 知見なし

会社情報

製造業者

Buehler
60044
ILLake Bluff41 Waukegan Rd
T 1-847-295-6500
custserv@buehler.com

本店

ITW ジャパン株式会社
東京都江東区北砂一丁目 4 番 4 号
T +81 (0)3 5439 5077
info.japan@buehler.com - www.buehler.com/Japan

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : Global Access Code: 334545; Americas" +1 760 476 3962; Middle East/Africa: +1 760 476 3959; Asia Pacific +1 760 476 3960; Europe +1 760 476 3961

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

健康有害性	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入：気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入：蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入：粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 1 (中枢神経系, 血液系)
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (中枢神経系, 呼吸器系)
	誤えん有害性	分類できない
環境有害性	水生環境有害性 短期 (急性)	分類できない
	水生環境有害性 長期 (慢性)	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

：危険

危険有害性 (GHS JP)

：眠気又はめまいのおそれ (H336)

臓器の障害 (中枢神経系、血液系) (H370)

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (中枢神経系、呼吸器系) (H372)

注意書き (GHS JP)

安全対策

：粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)

取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)

応急措置

：吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)

気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)

特別な処置が必要である(このラベルの補足的な応急措置の説明を見よ)。(P321)

保管

：換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)

施錠して保管すること。(P405)

廃棄

：内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
1,2-プロパンジオール	20 - 60	C3H8O2	(2)-234	2-(8)-321,2-(8)-323	57-55-6

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般：ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合：皮膚は多量の水で洗浄する。
眼に入った場合：予防措置として眼を水ですすぐ。
飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷：通常の使用条件下では、重大な危険有害性はないと思われる。
眠気又はめまいのおそれ。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療：対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤：未確定
火災時の危険有害性分解生成物：有毒な煙を放出する可能性がある。
消火方法：化学物質の消火活動は慎重に行う。
消火時の保護具：適切な保護具を着用して作業する。
自給式呼吸器。
完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

非緊急対応者

応急処置：漏出エリアを換気する。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

緊急対応者

保護具：適切な保護具を着用して作業する。
詳細については、第 8 項の「ばく露制御/個人保護」を参照。

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法 : 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。

その他の情報 : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : データなし

安全取扱注意事項 : 個人用保護具を着用する。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

接触回避 : データなし

衛生対策 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉しておくこと。
涼しいところに置くこと。

安全な容器包装材料 : データなし

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

呼吸用保護具 : 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。

手の保護具 : 保護用手袋

眼の保護具 : 安全メガネ

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体

外観 : 粘性

色 : 様々な色

臭い : 無臭

pH : 6.5 - 8.5

融点 : -22 ° C

凝固点 : データなし

沸点 : 100 - 205 ° C

引火点 : 100 ° C

自然発火点 : データなし

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第 7 節参照）。
混触危険物質	: 強酸。強塩基。強力な酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 分類できない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

1,2-プロパンジオール (57-55-6)	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】 (1) ~ (3) より、区分外とした。【根拠データ】 (1) ラットの LD50 : 22,000 mg/kg (SIDS (2004)) (2) ラットの LD50 : 8,000 ~ 46,000 mg/kg (EPA Pesticide (2006)) (3) ラットの LD50 : 21,000 ~ 33,700 mg/kg (PATTY (6th, 2012)) 【参考データ等】 (4) マウスの LD50 : 24,900 mg/kg (SIDS (2004)) (5) マウスの LD50 : 23,000 ~ 24,900 mg/kg (EPA Pesticide (2006)) (6) マウスの LD50 : 23,900 ~ 31,800 mg/kg (PATTY (6th, 2012))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】 (1) より、区分外とした。【根拠データ】 (1) ウサギの LD50 : 20,800 mg/kg (SIDS (2004))
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】 GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉末)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	20 g/kg
LD50 経皮 ウサギ	20800 mg/kg

皮膚腐食性／刺激性	: 分類できない
-----------	----------

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

pH	6.5 - 8.5
----	-----------

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

皮膚腐食性／刺激性	【分類根拠】（１）～（５）より、区分外とした。【根拠データ】（１）ヒトの皮膚に本物質原液を 48 時間適用したところ、刺激性は見られなかったとの報告がある（SIDS（2004））。（２）ヒト 6 人の皮膚に本物質原液を 2 時間適用したところ、刺激性は見られなかったとの報告がある（SIDS（2004））。（３）ウサギを用いた皮膚刺激性試験（OECD TG404）で、刺激性は見られなかったとの報告がある（SIDS（2004））。（４）ウサギを用いた皮膚刺激性試験（ドレイズ変法）で、刺激性はみられなかったとの報告がある（SIDS（2004））。（５）ウサギを用いた皮膚刺激性試験（EPA OPPTS 870.2400）で、本物質は非刺激性（non irritant）との報告がある（EPA Pesticide RED（2006））。
-----------	---

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：分類できない

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

pH	6.5 - 8.5
----	-----------

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

眼に対する重篤な損傷又は刺激性	【分類根拠】（１）、（２）より、区分外とした。なお、（３）は IPCS の記述であり、（４）、（５）はデータの詳細が不明であることから、分類判断に用いることはできないと判断した。【根拠データ】（１）ウサギを用いた眼刺激性試験（OECD TG405）2 件で、本物質原液の適用により刺激性は見られなかったとの報告がある（SIDS（2004））。（２）ウサギを用いた眼刺激性試験（EPA OPPTS 870.2400）で、本物質は非刺激性（non irritant）との報告がある（EPA Pesticide RED（2006））。（参考データ等）（３）ヒトの眼を刺激し、眼に入ると発赤、痛みを生じる（環境省リスク評価第 6 巻：暫定的有害性評価シート（2008））。（４）ヒトで眼刺激性の報告がある（IPCS PIM 443（Accessed Oct. 2018））。（５）本物質の職業ばく露による眼の傷害の報告はないが、一過性の刺すような痛み、眼瞼痙攣、流涙を生じる可能性があるとの報告がある（PATTY（6th, 2012））。
-----------------	---

呼吸器感作性：分類できない

皮膚感作性：分類できない

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

呼吸器感作性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
--------	-----------------------

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

皮膚感受性	【分類根拠】 (1) ~ (4) より、区分外とした。【根拠データ】 (1) ヒトに対する皮膚パッチテスト (n=104、GLP) で、本物質 50%溶液の半閉塞/閉塞適用による感作誘導後、50%溶液の半閉塞/閉塞適用で感作を誘発させたところ、それぞれ陽性反応は示さなかったとの報告がある (SIDS (2004))。 (2) ヒトに対する皮膚パッチテスト (ドレイズ変法、n=204) で、本物質 12%溶液の閉塞適用による感作誘導後、12%溶液の閉塞適用で感作を誘発させたところ、陽性反応は示さなかったとの報告がある (SIDS (2004))。 (3) モルモットを用いた Maximization 試験 (GPMT) 7 件のうち 1 試験のみ弱い陽性が見られたが、他の 6 試験は全て陰性だったとの報告がある (J. Am. Coll. Toxicol., 13 (1994))。 (4) マウスを用いた皮膚感受性試験 (OECD TG429、LLNA 法、n=4) において本物質 50%溶液で Stimulation Index (SI 値) は 1.2、本物質原体で SI 値 1.6 だったとの報告がある (REACH 登録情報 (Accessed Oct. 2018))。
-------	--

生殖細胞変異原性 : 分類できない

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

生殖細胞変異原性	【分類根拠】 (1) ~ (3) より、ガイダンスに従い分類できないとした。 【根拠データ】 (1) ラットの優性致死試験 (単回又は 5 日間経口投与) は陰性であった (SIDS (2004))。 (2) ラットの骨髄を用いた in vivo 染色体異常試験 (単回又は 5 日間経口投与) では陰性であった (SIDS (2004))。 (3) マウスの骨髄を用いた in vivo 小核試験 (単回腹腔内投与) では陰性であった (SIDS (2004))。 【参考データ等】 (4) 細菌を用いた 2 件の復帰突然変異試験は陰性であった (SIDS (2004))。 (5) ヒトリンパ球を用いた in vitro 染色体異常試験では陰性であった (SIDS (2004))。 (6) 哺乳類培養細胞 (CHO) を用いた in vitro 染色体異常試験では陽性 (S9-) の結果が得られたが、細胞毒性が発現する高濃度での結果であった (SIDS (2004))。
----------	--

発がん性 : 分類できない

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

発がん性	【分類根拠】 発がん性に関して、利用可能なヒトを対象とした報告はない。利用可能な動物試験結果は (1) の動物種 1 種に限られ、データ不足のため分類できない。 【根拠データ】 (1) ラット (30 匹/性/群) の 2 年間混餌投与による発がん性試験 (雄 : 200~1,790 mg/kg/day、雌 : 300~2,100 mg/kg/day) では腫瘍発生の増加はみられなかった (SIDS (2004))。 (2) 国内外の分類機関による既存分類はない。 【参考データ等】 (3) イヌ (5 匹/性/群) を用いた 2 年間混餌投与 (2,000、5,000 mg/kg/day) による慢性毒性試験で、腫瘍発生頻度に変化はみられなかった (SIDS (2004))。 (4) 雌マウス (例数不明) に一生経皮投与 (2~21 mg/匹/day) した試験で、皮膚腫瘍の増加はみられていない (SIDS (2004))。 (5) ラットの耳介に 10~14 ヶ月間塗布 (用量不明) したが、皮膚腫瘍の発生増加はみられなかった (SIDS (2004))。
------	---

生殖毒性 : 分類できない

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

生殖毒性	【分類根拠】（１）の経口投与による繁殖試験や、（２）、（３）の妊娠動物を用いた発生毒性試験では生殖発生毒性がみられなかったことから、分類できないとした。【根拠データ】（１）マウスを用いた飲水投与による連続交配試験において、10, 100 mg/kg/day を最長 98 日間投与したが、F0 及び F1 親動物に投与に関連した生殖影響はみられず、F1 及び F2 児動物に投与に関連した生存率、成長への影響はみられなかった（SIDS（2004）、環境リスク初期評価第 6 巻：暫定的有害性評価シート（2008））。（２）妊娠ラットの器官形成期（妊娠 6～15 日）に強制経口投与した発生毒性試験では、1,600 mg/kg/day までの用量で母動物、胎児ともに有害影響はみられなかった（SIDS（2004）、環境リスク初期第 6 巻：暫定的有害性評価シート（2008））。（３）妊娠ウサギの器官形成期（妊娠 6～18 日）に強制経口投与した発生毒性試験では、12～267 mg/kg/day 群で母動物に死亡例（用量相関なし）がみられたが、最高用量の 1,230 mg/kg/day まで、胎児に発生影響はみられなかった（SIDS（2004）、環境リスク初期第 6 巻：暫定的有害性評価シート（2008））。 【参考データ等】（４）妊娠マウスの器官形成期（妊娠 6～15 日）に強制経口投与した発生毒性試験では、1,600 mg/kg/day までの用量で母動物、胎児ともに有害影響はみられなかった（SIDS（2004）、環境省リスク評価第 6 巻：暫定的有害性評価シート（2008））。（５）妊娠ラットの器官形成期（妊娠 6～15 日）に吸入ばく露した発生毒性試験では、300 ppm までの用量で母動物、胎児ともに有害影響はみられなかった（ATSDR addendum（2008））。（６）妊娠ウサギの器官形成期（妊娠 7～19 日）に吸入ばく露した発生毒性試験では、300 ppm までの用量で母動物、胎児ともに有害影響はみられなかった（ATSDR addendum（2008））。
------	--

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 臓器の障害 (中枢神経系, 血液系)
眠気又はめまいのおそれ

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

【分類根拠】 (1) ~ (3) のヒトの知見より、中枢神経系及び血液系が標的臓器と考えられる。また、(3)、(4) の実験動物のデータからも神経系及び血液系が標的臓器と考えられる。また(3) より麻酔作用がみられている。以上より、区分1 (中枢神経系、血液系)、区分3 (麻酔作用) とした。【根拠データ】 (1) 2歳の男児が約1.75~2.25%の本物質を含むヘアジェルを誤って約3オンス摂取した後に中枢神経抑制及び代謝性アシドーシスを生じた。男児は嘔吐を繰り返し、嗜眠になり、強い痛みには反応しなくなった(ATSDR addendum (2008)、SIDS (2004))。 (2) 経口摂取による急性中毒症状は眠気から知覚麻痺、意識喪失、昏睡に至る。他の徴候としては、血清の高浸透圧、乳酸アシドーシス、及び低血糖である(IPCS PIM 433 (Accessed Oct. 2018))。 (3) 高用量の経口摂取による急性毒性症状は、中枢神経抑制と麻酔作用である。ラット及びマウスでは運動失調、眼瞼下垂、自発運動減少、体幹及び四肢の緊張、及び呼吸の減少である(ATSDR addendum (2008))。 (4) ラットの単回経口投与試験では、区分2範囲の730 mg/kg以上で赤血球数・ヘモグロビン・ヘマトクリット値の減少、及び網状赤血球・血漿ヘモグロビン・浸透圧の増加がみられた。また、赤血球の電顕観察で表面粗造、膜の破壊もみられた(SIDS (2004)、ATSDR addendum (2008))。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

臓器の障害 (中枢神経系, 血液系)
眠気又はめまいのおそれ

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (中枢神経系, 呼吸器系)

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

【分類根拠】（１）、（２）のヒトのデータより中枢神経系が本物質の標的と考えられ、区分１（中枢神経系）を採用した。また、（３）の実験動物のデータより、吸入経路での影響は区分１の用量で呼吸器への影響がみられたことから、区分１（呼吸器）とした。なお（３）のデータにおける試験濃度の 160 mg/m³ (51.4 ppm) は飽和蒸気圧濃度 (108.9 ppm) の 90%より低く、ミストを含まない蒸気と考えられることから、蒸気の基準を適用した。【根拠データ】（１）15 ヶ月の若年者が内服治療の溶媒として本物質を繰り返し大量に摂取した結果、低血糖と中枢神経抑制による有害症状を生じた。服薬中止により症状は急速に改善した (PATY 6th, 2012) 。（２）本物質を含む治療薬を 1 年以上内服した後に 11 歳の少年が大発作を起こした。この他、本物質に溶解したフェニトインを内服した患者で中枢抑制症状の報告がある (IPCS PIM 443 (Accessed Oct. 2018)) 。（３）ラットに本物質を 13 週間吸入ばく露 (160 ~2,200 mg/m³、6 時間/日、5 日/週) した試験では、区分１の範囲内である 160 mg/m³ (ガイダンス値換算 : 0.12 mg/L) 以上で鼻腔の出血、眼の分泌物の増加、1,000 mg/m³ 以上で、鼻腔に杯細胞数とムチンの増加を伴う呼吸上皮の肥厚がみられた (環境省リスク評価第 6 巻 : 暫定的有害性評価シート (2008)) 。（４）ラットに 15 週間混餌投与した試験では、50,000 ppm (約 2,500 mg/kg/day) で、有害性影響はみられなかった (SIDS (2004)) 。（５）ラットに 140 日間飲水投与した試験では、25%以上の濃度では飲水量減少による飢餓と脱水により全例が死亡した。NOAEL は 10% (13,200 mg/kg/day) と報告されている (SIDS (2004)) 。（６）ラットに 104 週間混餌投与した試験では、50,000 ppm (雄 : 1,700 mg/kg/day、雌 : 2,100 mg/kg/day) 有害性影響はみられなかった (SIDS (2004)) 。（７）イヌに 104 週間混餌投与した試験では、2,000 mg/kg/day では影響はみられず、5,000 mg/kg/day で血液系への影響 (赤血球数・ヘモグロビンの減少など) がみられた (SIDS (2004)) 。（８）ネコに 2~3 ヶ月間混餌投与した試験で、443 mg/kg/day 以上で血液系への影響 (ハイツ小体の増加、肝臓のヘモジデリン沈着 (二次的変化)) がみられた (SIDS (2004)) 。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (中枢神経系, 呼吸器系)

誤えん有害性

: 分類できない

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

誤えん有害性

【分類根拠】データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般

: 本物質は水性生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。

水生環境有害性 短期 (急性)

: 分類できない

水生環境有害性 長期 (慢性)

: 分類できない

1,2-プロパンジオール (57-55-6)

水生環境有害性 短期 (急性)

藻類 (メミカズキモ) 72 時間 EC₅₀ (生長速度) >1000 mg/L、甲殻類 (オミジンコ) 48 時間 EC₅₀(遊泳阻害) >1000 mg/L、魚類 (メダカ) 96 時間 LC₅₀ >100 mg/L (ともに環境省生態影響試験: 2018) であることから、区分外とした。

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

1,2-プロパンジオール (57-55-6)	
水生環境有害性 長期（慢性）	急速分解性があり(良分解性、BOD による平均分解度: 90%(化審法 DB: 1991))、藻類（ <i>レミカスギモ</i> ）72 時間 NOEC（生長速度）= 1000 mg/L、甲殻類(<i>オミジンコ</i>)の 21 日間 NOEC(繁殖阻害)= 1000 mg/L(ともに環境省生態影響試験: 2018)であることから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	51600 mg/l (Exposure time: 96 h - Species: Oncorhynchus mykiss [static])
LC50 - 魚 [2]	41 - 47 ml/l (Exposure time: 96 h - Species: Oncorhynchus mykiss [static])
EC50 - 甲殻類 [1]	> 1000 mg/l (Exposure time: 48 h - Species: Daphnia magna [Static])
EC50 96h - 藻類 [1]	19000 mg/l (Species: Pseudokirchneriella subcapitata)
NOEC 甲殻類 慢性	1000 mg/l
NOEC 藻類 慢性	1000 mg/l
BCF - 魚 [1]	< 1

残留性・分解性

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)	
残留性・分解性	データなし

生体蓄積性

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)	
生体蓄積性	データなし
1,2-プロパンジオール (57-55-6)	
BCF - 魚 [1]	< 1

土壌中の移動性

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)	
土壌中の移動性	データなし

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

国連番号(UN RTDG) : 規制されていない
正式品名 (UN RTDG) : 規制されていない
容器等級(UN RTDG) : 規制されていない

安全データシート

MetaDi Water Based Suspension (Supreme, Monocrystalline, Combo)

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

輸送危険物分類 (UN RTDG) : 規制されていない

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG) : 規制されていない

正式品名 (IMDG) : 規制されていない

容器等級(IMDG) : 規制されていない

輸送危険物分類 (IMDG) : 規制されていない

航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA) : 規制されていない

正式品名 (IATA) : 規制されていない

容器等級 (IATA) : 規制されていない

輸送危険物分類 (IATA) : 規制されていない

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

化審法 : 優先評価化学物質 (法第 2 条第 5 項)

消防法 : 第 4 類引火性液体、第三石油類水溶性液体 (法第 2 条第 7 項危険物別表第 1 ・ 第 4 類)

海洋汚染防止法 : 有害でない物質 (施行令別表第 1 の 2)

外国為替及び外国貿易法 : 輸入貿易管理令第 4 条第 1 項第 2 号輸入承認品目「2 の 2 号承認」
輸出貿易管理令別表第 1 の 1 6 の項
輸出貿易管理令別表第 2 (輸出の承認)

特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法) : 特定有害廃棄物 (法第 2 条第 1 項第 1 号イ、平成 3 0 年 6 月 1 8 日省令第 1 2 号)

16. その他の情報

免責事項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしてはいるが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。